

# 🔍 昨今のめい探偵さん 🔍

M「今回、私が名作コーナーの担当なのだけど。何を取り上げようか迷っているのよね～。やっぱり横溝先生かしら。金田一」

F「たしかに、探偵ものってたくさんありますよね。検索ワードに“探偵”と入れたらたくさん出てきました」

S「その中でもやっぱりシャーロック・ホームズものは多いですね」

M「私は、ホームズが使う“バリツ”が何なのかを知りたい」

S「“バリツ”？」

M「柔術らしいのだけれど、日本で“バリツ”って聞かないでしょう？ 何を指しているのかずっと気になっているのよね」

F「ホームズは何でもできますよね～。ヴァイオリン弾けたり。どの話か忘れましたけれど、誰かがひん曲げた火かき棒を力づくで元に戻した、みたいな場面があったの覚えています」

M「名探偵に死角なし……。最近は、探偵って何でも有りみたい」

S「動物が探偵のものもありますよね」

M「動物どころじゃないの。私が読んだのは“掃除機”」

S&F「掃除機??」

M「そう、意識不明になった主人公が目覚めたら、意識が掃除機に乗り移っているの。ル●バみたいな」

F「もうそれ自体が謎……。事件解決どころじゃありませんね」

S「あ、そうだ、このあいだ書架を見ていたときに『はみがき探偵』っていうのを見つけましたよ！」

F「はみがき……？」

M「ゲームも入った本なのね。そうよ、だれか『おしりたんてい』でPOP書いて！ 探偵特集なら外せないでしょう！」

S「……私は『はみがき探偵』があるので」

M「じゃ、Fさん、頼んだ」

F「え!？」



<https://www.instagram.com/hondarake55>

←ブログはこっち <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>



←インスタは  
ココ

# ホンダラケ

2021. 4.1

## めい探偵 頂上決戦

F「さあ、誰がいちばんおもしろい探偵を紹介できるか、勝負です！」  
S「え、そっち？」

## 『帝都探偵大戦』



芦辺拓:著 東京創元社 2018年刊

半七、銭形平次、法水麟太郎、帆村莊六、神津恭介、小林少年など、ミステリ好きなら一度は耳にしたことのある名探偵たち。作者も書かれた時期もバラバラな彼らが一堂に会したら……。そんな贅沢な願いを実現したのがこの一冊。

それぞれの探偵が活躍した時期ごとに「黎明篇」「戦前篇」「戦後篇」と章を分け、名探偵たちが犯罪と闘う!

見える。探偵たちのドヤ顔が見える。

F/アシ

## ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがごございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「デビュー作」。今をときめく人気作家さんたちの本を集めてくれました!ちなみに、ホンドラケで紹介する本は、「万城目さんのデビュー作ではなく、デビュー作が出てくる小説」だそうです。ひとひねり効いてますね!!

## 『バベル九朔』

作家志望の主人公は、祖父の建てた雑居ビル「バベル九朔」の五階に起居し、管理人を務めながらデビュー作となるべき大長編を書いてきた。だが、原稿メ切の日、彼は見知らぬテナントがひしめく自分のビルに迷いこむ。上へ上へと続く階段。壮大な秘密を抱えた「バベル」で、彼のデビュー作が果たす役割とは…?人間の夢に訴えかける一冊をぜひ。



万城目学：著  
F/マキ  
KADOKAWA  
2016年刊

P.N. 西浩一 (高校2年生)

# 新着図書 Pick Up

『ヤバすぎる日本刀伝説』 小和田哲男:監修 2021年刊  
宝島社



刀剣を擬人化したゲームが流行ってましたっけね。ゲームにハマってやたら刀剣に詳しくなっちゃった人もいるんじゃないかしら。そんな刀剣の知られざる逸話や伝説が面白おかしく説明されています。カッコイイイメージの刀剣だけど、血生臭い伝説が多いのは、やはり人を斬るための武器だからでしょう。それにしても、新選組局長・近藤勇の長曾祢虎徹が偽物だったとは…!「今宵の虎徹は血に飢えている」の名セリフもなんだかかすんじゃいますね。

756.6/21

# 『こんな本、棚から見つけました』のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

## 『地下鉄 Sound of colors』

ジミー:作・絵 宝迫 典子:訳 2002年刊 小学館



726.6/ジミ

台湾でベストセラーとなった大人向け絵本です。細かい描写で美しく色彩豊かな絵と、心にそっとしみ込んでくるような優しい文。目の見えない少女が地下鉄に乗り、旅を始め新しい世界に出会います。時には迷い、悩み、考え、希望を持ち続け、幸せを探していく旅。読み終わってから何度もまた、読み返したくなります。所々に出てくる動物のコミカルな表情に癒されます。



# YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

## 『犬神家の一族 金田一耕助ファイル 5』

横溝正史:著 1996年刊 KADOKAWA/角川文庫

金田一さん、すぐ来てください。とうとうやられましたよ。犬神家の3人目が…

探偵・金田一耕助が活躍する作品は数あれど、やっぱり佐清さんの遺体発見シーンが強烈。映像化されすぎて、視覚イメージの方が印象深いのは仕方ないでしょう。犬神家当主・佐兵衛が亡くなり、遺言書開封のために集まった一族。しかし!遺産は!なんと!犬神家とは血縁のない珠世が、犬神家の3人の孫息子の誰かと結婚すれば相続できるのだ!狙われる珠世。次々と殺害される孫息子たち。金田一が複雑な人間関係と謎を明かしていく様はわくわくします。昭和の香りがちょっと強いけどね。



F/ヨコ